

## 指定管理者制度活用事業 評価シート

## 1. 基本事項

施設名称	幸区第1グループ(南河原・幸・下平間)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敏子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

## 2. 事業実績

		H26	H27	H26	H27	
		1 南河原こども文化センター ①年間延べ利用者数	46,500人	52,481人	②年間延べ利用団体数	984団体
利用実績	2 南河原小学校わくわくプラザ ①登録者数	188人	177人	②年間延べ利用者数	10,853人	11,277人
	3 幸小学校わくわくプラザ ①登録者数	266人	295人	②年間延べ利用者数	19,592人	21,212人
	1 幸こども文化センター ①年間延べ利用者数	34,738人	37,667人	②年間延べ利用団体数	402団体	399団体
	2 戸手小学校わくわくプラザ ①登録者数	408人	409人	②年間延べ利用者数	26,885人	24,897人
	3 御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数	399人	387人	②年間延べ利用者数	25,111人	24,573人
	4 西御幸小学校わくわくプラザ ①登録者数	164人	165人	②年間延べ利用者数	8,838人	10,680人
	1 下平間こども文化センター ①年間延べ利用者数	26,932人	28,225人	②年間延べ利用団体数	512団体	462団体
	2 下平間小学校わくわくプラザ ①登録者数	247人	227人	②年間延べ利用者数	15,888人	14,541人
	3 古市場小学校わくわくプラザ ①登録者数	166人	171人	②年間延べ利用者数	10,624人	9,842人
	3 古川小学校わくわくプラザ ①登録者数	397人	442人	②年間延べ利用者数	23,966人	25,304人
収支実績	1 収入 指定管理料	179,163,658				
	2 支出 人件費 管理費 事務経費 その他経費	154,904,510 13,085,435 8,563,989 4,698,114				
		181,252,048				
	3 差引	-2,088,390				
	単位:円					
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。					

## 3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 幸区内のこども文化センター6館の合同事業として実施した「さいわいキッズシティ」におけるボランティア参加や、南河原こども文化センター及び管轄のわくわくプラザにおける中学生の職業体験の受け入れ、「けいおんday」への講師としての参加等、各種イベント実施の際、近隣の中学生が積極的にボランティアとして参加していること、また、「おひさまひろば」や「おばけやしき」等のイベント開催時に、近隣の保育園から学校、地域の各団体まで、多数の地域住民が参加しており、多世代交流、地域交流が盛んに行われていること、それらの結果、中高生を中心に利用者数が伸び、第1グループ全体の利用者数が昨年度より増加(特に南河原こども文化センターにおいては大幅に増加)した。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
(評価の理由)会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取り組みによる経費削減を図った。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
	(評価の理由) 施設・事業の周知については、広報誌やインターネット、ラジオ等、様々な媒体を活用しており、特に、南河原こども文化センターでは、各イベントの様子を写真を多用して館内に分かりやすく掲示し、来館者に対しPRを行うなど、積極的な広報姿勢が見られた。利用者への対応については、マニュアルに基づき誠実に対応し、クレーム内容を職員内で共有するなど、適切な対応を行っている。運営協議会及び保護者懇談会の実施については、計画通り開催し、会で出された意見等について事業実施の際、反映するよう努めている。学校及び行政機関との連携については、近隣の学校と連携し、中学生の職業体験を積極的に受け入れたり、不登校児童の居場所づくりに努めたり、また、中高生食堂と題した飲食の提供を実施するなど、中高生の居場所づくりに積極的に取り組んでいる。利用者ニーズについては、事業実施後のアンケートや館内設置の意見箱等から適宜把握しており、実行計画を作成し、図書の選定やこども文化センター祭り、お楽しみ会に活かすなど、可能ななものから順次対応している。				
	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
組織管理体制	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
	個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3
	(評価の理由) 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。特に、幸区内のこども文化センターは中高生の利用が多いことから、区合同で「不登校児対応研修」、南河原こども文化センターでは「中学生対応研修」、「気になる子どもへの対応研修」を行う等、更なる研鑽を行っていた。個人情報等の取扱については、マイナンバー制度開始に伴う個人情報の管理についても適切に対応しており、情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。				
	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来たすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
適正な業務実施	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	3	3
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
		災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか			
	(評価の理由) こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に実施している。利用者の安全確保に向け、グループ全職員に普通救命講習の受講を義務付け、有事に備えるとともに、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行っており。防犯対策及び災害時の対応として、館ごとに災害時対応マニュアルを毎年度作成し、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。				

#### 4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している。各種イベントを実施する際には、子ども実行委員が自ら企画・運営できるようなサポート体制を取っており、こども文化センターの目的である、青少年の健全育成・社会参加に大きく貢献していると言える。 また、学校や行政、地域の各団体等と連携した事業展開を行っており、特に、近隣の中学校との連携による職業体験の受入や不登校児童の居場所づくり等、近年、喫緊の課題となっている中高生の居場所づくりに積極的に取り組んでおり、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所の一つとしての役割を十分担っていると言える。
---

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、職員と子どもが顔の見える関係を築き、中高生を含めた様々な年代の子どもたちにとって、居心地のよい場となるよう努めてもらいたい。また、協定書等の規定に従い、会計に関する規定の整備等を適正に実施してもらいたい。
--